

中谷早生（なかたにわせ）

登録番号：第11371号

来歴：「刀根早生」の枝変わり

登録年月日：平成15年8月19日

育成地：和歌山県紀の川市西川原

登録者：堂田政男（和歌山県紀の川市西川原225）

育成者：堂田政男

特性

■栽培特性

樹勢は強く、樹姿は直立性と開張性の中間である。枝梢は太く黄褐色、発育枝は極長で節間長は長い。葉身はやや長楕円で、上部の形は広く、基部はかなり鈍。葉はやや大きく、葉柄は短い。

発芽期および開花期は「刀根早生」と同時期であり、花性は雌花のみ。成熟期は育成地（和歌山県紀の川市）では9月中旬であり、「刀根早生」に比較して2週間程度早い。

■果実特性

果実の大きさは170g程度でやや小さいが、玉揃いは良い。果形は扁円、縦断面および横断面の形は方形である。果皮は黄橙色であり、糖度は14.5%、果肉は黄色で、褐斑、種子数は無、果肉の粗密は密で肉質は軟らかい。甘渋性は不完全渋ガキであり、脱渋性は容易である。条紋、ヘタスキ、十字型汚損果の発生はみられないが、花柱痕基部の微小孔などの果頂裂果の発生がやや多い。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

「刀根早生」と同様の防除を行うことにより、栽培上問題となる病虫害の発生は認められない。

栽培上の留意点として、若木では、樹勢が旺盛で生理的落果が多いことから、弱せん定や開花期に環状剥皮処理などを行うとよい。また、新梢先端部の節間が短く、枝が叢生することから、主枝、亜主枝の先端枝は充実した新梢を残し、他は適度に剪除する。

さらに、本品種は8月下旬～9月中旬にかけて、急速に肥大し、着色が向上し、糖度が上昇する特性があるため、性急な早採りは避け、果頂部着色でカキのカラーチャート指数5を目安に収穫するとよい。CTSD脱渋処理は「刀根早生」と同様に25℃16時間、処理後4～5日で可食状態となる。なお、本品種は高温期に成熟するため果実の取り扱いには十分注意する。

■地域適応性

8～9月にかけて高温が続いても果皮の着色が進み易く、極早生品種として期待できる。また、高冷地では平地に比べて着色が早まるが、果実肥大が劣るため、暖地向き品種と考えられる。発芽期の晩霜被害には「刀根早生」同様に注意が必要である。

（小松英雄）